

みやき便り

No.6

2016年12月28日発行

12月号

日本生協連
組合員活動部

震災から月日が経った今だからこそ話したいことや、
新たなコミュニティに移る過渡期の悩みなどの声が、
ふれあい喫茶の参加者から寄せられています。



ふれあい喫茶 ～気兼ねなく話せる場になっています～

「今さら被災したことを話題に出すのは恥ずかしいような、
ためらいを感じて言い出しにくいですが、やっと、今だから聴いてほ
しいという気持ちが出てきたよ」と当時の様子を話される方がい
ます。また、「元の仮設住宅の人たちだと気兼ねなく話ができるの。
転居先ではまだお互いに探りを入れている状態なのでね」「以前は
次の目標があってそれに向かって生きていたが、災害公営住宅に
引っ越してから目標がなくなってしまった感じがする」「仙台市の対応は先を急ぎすぎていて、
この先も不安なことが多い」など、仮設住宅から転居された方々からの、新たなくらしの中
からの声が寄せられています。



「生協さんだから安心して喫茶に参加している」と話される方もいて、ふれあい喫茶は声に
寄り添って継続して活動していることで、気兼ねなく本音で話せる場となっています。



災害公営住宅と地域のつながりづくりに協力しています

10/29(土)、角五郎二丁目町内会からの依頼を受け、町内の災害公営住宅入居者と地域住民の
交流をすすめるための秋まつりに参加。ポップコーンとわたあめづくりで協力しました。当日は
500人を超える方が参加され、子どもたちが自分でわたあめを作って楽しむなど、多くの方が
笑顔で交流されていました。後日、自治会長さんから「皆さんがこのお祭りをとても楽しみにし
ていました。生協さんには、大変盛り上げていただき感謝しています」とお礼をいただきました。





全国の生協からいらしていただき、交流が行われました

共立社鶴岡生協環境委員会の皆さんが、名取市の箱塚屋敷団地仮設住宅のふれあい喫茶に訪れ、庄内地方に伝わる紙芝居や、山形版みそ仕立ての芋煮で、住民の皆さんと交流しました。「作りに来てもらってありがとう。来年は、宮城の芋煮をごちそうしたいね!」「みんなで芋煮を作るから手ぶらで来てください」と住民の皆さんから感謝の声が出されました。



コープこうべ大阪北・第1・第2地区の皆さんが気仙沼市メンバー（組合員）集会室と鹿折中仮設住宅のふれあい喫茶に訪れました。毎年いらしていただいております。再会できた方と既に転居された方がいることに被災地の変化を感じ取られていました。内陸の登米市のこ〜ぷ委員会のメンバーもかけつけ、登米市名物のあぶら麩入りのはっと汁を食べながら交流しました。



震災の教訓は・・・

2016年11月22日早朝に福島県沖で発生した地震では、津波注意報が時間をおいて警報に変更されました。東日本大震災を思い出して避難指示を待たずに自主的に高台などへ避難された方、津波警報で急きょ通常授業から休校に切り替えた学校、沿岸方面の職場に出勤された方など、地域や個人によって避難の仕方にバラつきが出ました。車での避難はしないよう呼びかけられている中、避難や通勤などの車で大渋滞となった場所もありました。年月が経っても震災を忘れず、教訓を伝え続けていくことの大切さは増しています。



山元町新市街地でまちびらき!

震災から5年7か月が経過した10月下旬、待ちに待った新しい街「つばめの社」「新坂元駅周辺」地区を会場にまちびらきイベントが行われました。来場者は5,000人を超え、町民の新しいまちへの期待の大きさが感じられました。支援に関わった各自治体や団体としてみやぎ生協も参加しました。一方で、同じ町内でも未完成の災害公営住宅や、道路整備もすすんでいない旧市街地にお住まいの方々からは、「取り残されているような感じがする」との声も寄せられていました。



発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池、住吉